

「ハリケーン・トランプ」

～ 新政権の 100 日

在米ジャーナリスト 佐藤則男

トランプ大統領が誕生以来、アメリカには大嵐が吹き荒れている。「ハリケーン・トランプ」大暴れとも言えるかもしれないが、とにかくこれまでの大統領ハリケーンと異なり、風速もその進路も分からない。果たして、そのまま強い勢力を持ち続けるのか、やがて勢いが収まり温帯性低気圧となって消滅するのか。何とも読めないのである。

大統領令を立て続けに発令

トランプ政権の特徴は、ほぼ完全と言えるほどオバマ政権の政策の否定、さらに言えばブッシュ政権、いや、これまでの歴代大統領の政策の否定、常識を無視したものである。例えば、不法移民問題。アメリカにはここ2～3年、不法移民は1100万人いると推測されている。これだけの不法移民をどうやって見つけ出し、本国に強制送還するのか。そのようなことをできるはずがないことは、常識あるアメリカ人なら分かる。トランプ氏は、それをやることを選挙公約としたのであった。

また、メキシコ国境に高い塀を作り不法移民が入ってくることを防ぐと豪語したり、その巨額の代金をメキシコ政府に払わせると言っているが、非現実的であり不可能である。

オバマ前大統領を否定するだけならまだいいが、今アメリカが抱えている問題をオバマ氏と歴代大統領のせいにし、それを公の場で表現するのであるから理解し難い。そのような態度を非合理、不遜、中傷と捉えるアメリカ人も大勢いる。特に民主党支持者でオバマ支持者は、耐えられないほどの怒りを感じているであろう。

アメリカの歴代大統領で前任者をここまでぼろくそに言う大統領を、筆者は42年間のアメリカ生活で見たことがない。公衆の前で「オバマ」と呼び捨てにし、敬意を払わない大統領など前代未聞である。筆者は決してオバマファンではないが、オバマ前大統領はアメリカ国民に対し合理的なより良き生活のための政策は行ったと思う。その1つが国民全員を医療保険に入れようとしたいわゆるオバマケアで、激しい賛否両論はあったが押し通した。筆者はこの業績は評価したい。国民全員が加入できる医療保険制度がなく、医療を受けられない国民が多くいるなどということは、先進国であり大国であるアメリカの恥である。

大統領選挙中、トランプ氏は終始一貫、このオバマケアを撤廃すると豪語し公約した。そして大統領就任後、即座にその改革法案を成立させようとしたが、共和党内で賛成多数を得ることができず頓挫してしまった。ホワイトハウスに入り、すぐ起こったトランプ氏の大きな敗北であった。

トランプ氏の常識を外れたオバマ前大統領批判はオバマケアだけではなく、前大統領の不法移民に対する政策の甘さ、シリア、中国、北朝鮮などに対する外交政策の甘さを強烈な表現で批判し続け、オバマ氏の実績を無きに等しいものにしたのである。

トランプ大統領が誕生し、あれだけ忌み嫌ったワシントン体制を破壊するため取った具体的方法は大統領令を出すことであった。大統領の特権を使い、最初から大統領令を立て続けに発令するトランプ氏の姿は、立法機関である議会を無視した